

カナダ -政策金利を据え置き-

<政策金利を据え置き>

3月1日、カナダ中央銀行は政策金利を0.50%に据え置くことを決定しました。

声明文では「エネルギー価格上昇の影響を受けて1月のインフレ率は前年比+2.1%へ上昇したが、一時的なものである」と指摘しています。

カナダ経済は、個人消費や住宅関連が予想を上回って堅調に推移するものの、輸出は競争環境にさらされている状況が続いているとしています。また、雇用者数が増加する一方で、緩やかな経済成長を反映して賃金上昇や労働時間増加には力強さが欠けるとしています。

<カナダドルの動向>

政策金利の据え置きは市場予想通りでしたが、2月28日のトランプ米大統領の議会演説を受けて米ドル高の流れが続き、カナダドルは対米ドルで小幅に下落しました。

3月1日の海外終値は、1米ドル=1.3325カナダドル、1カナダドル=85.35円となっています。

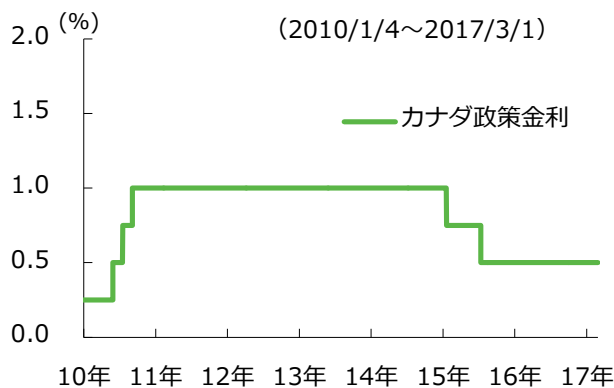
<今後の見通し>

カナダ経済は、2016年7月に開始した子供手当支給による消費の喚起やインフラプロジェクトによる設備投資の押し上げ効果、原油価格上昇による関連産業の回復などから、引き続き緩やかながらも回復の方向に向かう見込みです。

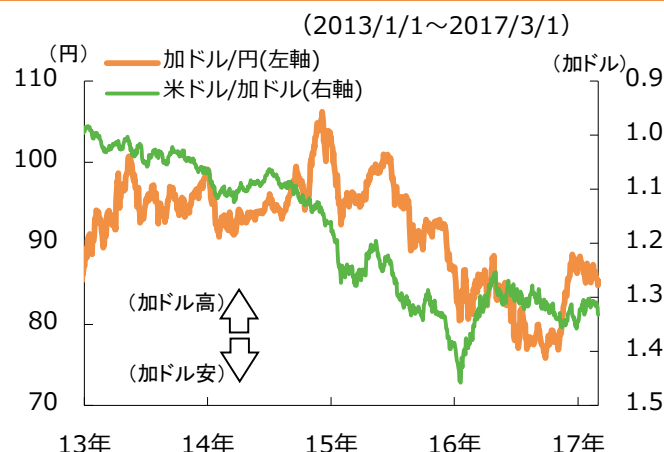
トランプ政権によるNAFTAの見直しは、カナダ経済にとってのリスク要因となる可能性があります。一方でトランプ米大統領はNAFTA再交渉によりカナダが大きな不利益を被ることはないと明言しています。また、同氏が掲げる米国経済の成長重視の政策は、隣国カナダの経済にとってもプラスの影響をもたらすと見方もあります。

カナダ経済の回復が見込まれることやOPECの減産合意により原油価格が高値圏で推移していることなどから、カナダドルは底堅く推移すると予想されます。

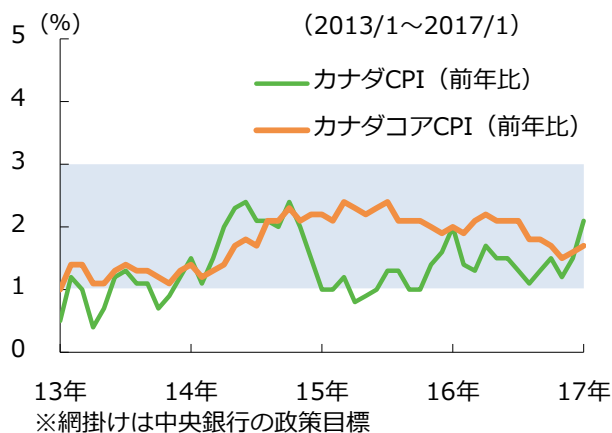
<政策金利の推移>



<カナダドルの推移>



<消費者物価指数>



出所：Bloomberg